

# 中国における職業生活意識\*

## —「労働生活の質」に関する調査研究(1)—

李

為\*\*

### 1. はじめに—問題設定と調査概要—

中国では経済改革開放の政策を実施して以来、すでに16年が経た。1949年から70年代までの経済体制を閉鎖的な社会主義計画経済体制とするなら、80年初頭からの経済体制は開放的な社会主義市場経済である。このことは、中国社会では一般的な認識となっている。この社会的転換は、単に政策的なものにとどまらず、社会全般に行き渡っている。経済改革は農村から始まり、一定の成果を収めたが、近年、都市部の国有企業を中心とする改革に重点が置かれている。これまでのところ経済改革によって国民経済は大きな成長（GNP成長率これまで8%以上続けてきた）を見せつつあるが、経済計画体制の下で現われていなかった問題が徐々に顕著化しつつある。例えば、失業問題である<sup>1)</sup>。計画経済体制の下の「広就職、低収

入」と人の配置重要視は、経営効率の無視をもたらした。確かに失業率は低い水準に保たれたが、行きすぎた平等主義は生活水準の質を低下させた。一方、市場移行期における国有企業改革は、企業が抱えている余剰人員を削減するために、失業の急増をもたらした。このような国有企業改革に伴う失業者を「下岗工」と呼んでいる。しかし、「下岗工」は失業者であると言いつても、職を失っても、元の企業から月に一定の生活手当をもらっている。職業開発、再就職といった課題が最優先されているが、一方、従来の労働関係も多元化、複雑化しつつある。市場移行期の社会保障制度が不十分なため、国有企業の「下岗工」の扱いと再就職の扱いが現在の課題である。このような社会変動期における社会問題が、企業で働く人の意識の動向にどのように反映されているか、本稿は特にこの問題について述べることに重点をおきたい。

\*キーワード：中国の職業生活意識 労働生活の質 従業員意識

\*\*関西学院大学大学院社会学研究科博士課程後期課程

- 1) ①1996年末の全国登録失業人数は552.8万人、95年より33.2万人増加した。失業率は3.0%であった。失業率の3%以上であった地域は、内モンゴル3.9%、遼寧3.6%、黒龍江3.0%、浙江3.0%、安徽3.1%、山東3.5%、湖北3.5%、湖南3.9%、広西3.7%、海南4.3%、四川3.7%、貴州6.2%、(西北五省)陝西5.2%、甘肅5.5%、青海7.2%、寧夏5.2%、新疆3.4%。2.5%以下の地域：北京0.6%、天津1.0%、河北1.9%、山西1.7%、吉林2.2%、江蘇2.3%、福建2.4%、江西2.3%、河南2.5%、広東2.5%であった。ちなみに1997年の全国登録失業人数は570.0万人であった。(出所：『中国労働』1998.1 p. 44 『中国労働』編集部、『中国統計摘要』1998 p. 36 中国統計出版社) ②都市部国有企業の「下岗工」人員の増加である。1996年末の全国企業の「下岗工」人員は814.8万人であった。95年より263.7増加した。増加率は47.8%であった。うち、国有企業は542万人、全体の66.5%を占めた。地域別にみると、8%以上の地区は、天津8.7%、遼寧13.1%、吉林9.1%、黒龍江8.8%、江西10.4%、湖北9.7%、湖南11.7%、海南8.8%の五つのとことであった。5%以下の地区は、山西4.7%、福建4.4%、山東4.6%、広西3.1%、甘肅3.7%、青海3.5%、寧夏3.1%と新疆の2.2%であった。1997年末は1000万人を越えると予測されている。(出所：『中国労働』1998.1 『中国労働』編集部) ③農村余剰労働力の移動である。都市部における農業労働力の新たに従業した人数は、1985年(150.2万人)、1990年(118.0万人)、1995年(220.0万人)、1996年(210.0万人)、1997年(190.0万人)であった。改革開放の政策を実施して以来、農村部の人口流動が加速された。農業人口から非農業人口への移動は、農業国から産業国への必然的な道であると思う。80年に入って、中国は工業化への加速によって、農村の余剰労働力が非農業領域への移動は必然的に変わってきた。それまでの戸籍「制度」による移動制限はしだいに不機能化しつつある。しかし、都市に与えている圧力が大きい。